

スポーツ大会の華

— 応援団・2014の軌跡 —

学舎に通い始めて6年目。初めて紅組応援団に参加しました。長谷川団長の元気と企画、アイデアに魅かれて私、副団長を務めることになりました。

最初は、男性もスカートを穿き、ど派手な衣装で戸惑いました。しかし、練習を重ねていくうちに、女性陣よりも男性陣の方が自宅でDVDを見ながら練習をしていて、家族から変な目で見られながらも、毎日、学舎での練習に参加される姿には、頭が下がりました。

私も踊りは全然、ダメな方でしたが、本番までには何とか、恰好が付き、最後の掛け声も皆さん揃って、「ヤッチャレ！ヤッチャレ！」。鳴子と紅団扇でこころがひとつになり、優勝できたことを嬉しく思います。

ありがとうございました。

鉄壁の紅
紅組副団長 村木菊代
(暮らしと環境)



村木さん

襷を飛ばす後姿の紅組応援団長



「よさこい(恋)するフォーチュンクッキー」を踊る紅組応援団(上)



「今も、凛々しい姿、白組応援団(下)」

白の挑戦

白組副団長 篠原達夫
(心と身体の健康)



篠原さん

応援団の初会合。団長、副団長の選出も終わり、さて、何をどうやるのか。

樋口副団長より、提案があった。「今までと違う応援をやりたい。大学の応援団のような応援ができないか」と。特に大きな反対はなく、提案通り、進めることとした。

しかし、いずれも未経験者ばかり。女性陣は樋口さんが振付けを、男子は多少の経験がある私が演技構成を行った。当初は欠席者が多く、練習もなかなか進まなかった。それでも何日かすると、様になってきた。女性陣との合同練習や振付けのすり合わせ等を繰り返し、何度も意見をぶつけ合いながら、少しずつ前進していった。

ハチマキ、タスキ、白組団旗、小旗、ポンポン等の小道具も樋口さんの懸命の努力で順次、揃ってきた。

最後の2日間は、全団員集まったの全体練習。何とかやれる。全員の目の色も違ってきた。ドームでの位置取りも決めた。足腰の調子がよくない人も何回も何回もドーム内を走り回って、大変だったと思う。

そして、本番。皆で頑張っただけのことはあった。応援に対して暖かい評価をいただいた。シニアのスポーツ大会とはいえ、少しは格調高い応援ができたのではないかなと思う。

応援団員の方をはじめ、ご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。



白組子アガールの面々

■インコースにも愛を…
今年が初めてのスポーツ大会。スタートラインに立った時、インコースが絶対に不利だと思った。四人が第一コーナーを目指し、全員が走り出した時、スタートラインの白線角度が大きい為、インコースにいる走者はアウトコースの走者に走路を塞がれ、前に出ることができない。
もっと勾配を小さくするか、スタート走者どうしの横幅を広く取るか、来年は検討したい。



ふだんのたまもの？

■お弁当代はお幾いっ？
さて、今年の風食の様子はどうか。2階観覧席では各コースが手配の弁当をいっせいに広げる。価格は490円、500円、800円といろいろ。中には手作り弁当もちらほら。今年も花ボランティアの手作りカレーは400円で提供され、130食完売。今年は「特に美味しかった！」とか。お腹も心も充実して、さあ、午後のプログラムへ。



バンザイ、紅組！

■え、どんな点のつけ方？
得点板に何度も目がいく。大玉転がしの時点で10点差となったからだ。確かに紅組が2回とも勝った。なのに、20対10である。団体競技は負けても5点の得点となるルールらしいが、他の競技はどうなっているのか。説明の欲しい点のつけ方に賛否両論…。



反則すれすれ…

■私語はやめよう!!
入場門では次の競技の点呼・整列が行われていたが、私語に夢中の選手たちは知らぬふり。係員らは汗だくで呼びかけていた。元気ハツラツ、スポーツ大会の別の側面を見た。